

公益財団法人千里文化財団
令和 5 年度事業計画及び収支予算書
(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

令和 5 (2023) 年
公益財団法人千里文化財団

令和5（2023）年度事業計画書（2023年4月1日～ 2024年3月31日）

当財団の目的は、「この法人は、文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献する」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、文化振興や次世代育成等を含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2023年度は、コロナ禍で落ち込んだ国立民族学博物館友の会会員数の増強に資するさまざまな方策に重点をおきながら、2025年大阪・関西万博とその後を見据え、さらに現今の世界情勢を踏まえつつ、当財団の果たすべき公益目的事業を模索し推進する。2024年に国立民族学博物館創設50周年、2027年には開館と友の会発足50周年をそれぞれ迎えることから、関連催しへの協力、50周年事業として50年間の記録作成や事業継承に向けた体制づくりにも努めていく。

定款で定められている事業（第4条）

- （1）文化人類学・民族学等に関する普及事業
- （2）国立民族学博物館及び各種機関の活動に対する支援及び利用促進事業
- （3）文化に関する各種事業の企画・運営及び各地域の文化振興に対する協力事業
- （4）第1号から第3号にかかわる各種調査・研究の推進事業
- （5）この法人の目的にふさわしい諸活動に対する協力事業
- （6）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2023年度の重点的な取り組み

- （1）ポストコロナの会員増強に向けた広報及びサービス事業の拡充
- （2）文化多様性の視点でSDGsを考察する事業
- （3）2025年大阪・関西万博の機運醸成のための事業の実施
- （4）国立民族学博物館創設50周年事業（2024年）への協力

1. 文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に、文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータ整備と活用支援（受託事業）膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データ作成及び利活用（原資料の保存、原資料のデジタル画像化によるデジタルアーカイブズの構築、閲覧、展示ほか）の支援をおこなう。
- 2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（184号～187号）の編集、発行、広報普及活動
※172号より、普及活動として書店での取扱いを促進するため取次会社を通して全国の書店に配本
別紙1：2023年度『季刊民族学』企画内容（案）
- 3) 国立民族学博物館、及び文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会等の企画・運営
別紙2：2023年度講演会等企画内容（案）
- 4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
特別展図録『交感する神と人—ヒンドゥー神像の世界（仮）』の編集制作業務
(2023年8月末発行予定)
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業
 - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等、国立民族学博物館の刊行物の頒布
 - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
 - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売
展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、Tシャツ、クッキー、スタンプ、クリアファイル、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、レターセット等
 - ④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の販売
- 3) 国立民族学博物館の普及事業
 - ① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強
国立民族学博物館ならびに文化人類学・民族学の普及を目的とし、国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促す。
2023年度の取り組み
会員種別毎に広報内容と対象を絞り、会員増強を目指す。
→ 入会キャンペーンの実施 ※実施時期は新型コロナウイルス感染症の状況により調整
→ 各種サービスの充実
→ 万博記念公園関連施設との連携の強化
→ キャンパスメンバーズへのサービスの見直し
 - ② 「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行（年6回発行）
 - ③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営及び増強 別紙3参照
 - ④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』作成支援業務、デザイン業務、誌面リニューアル及び編集制作業務（受託事業）
 - ⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び頒布
- 4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業
 - ① 展示案内学習支援等業務を受託し実施する。（受託事業）
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
 - ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施する。（受託事業）
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務
 - ③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施する。（受託事業）
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
 - ④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）

5) その他 国立民族学博物館活動に協力する事業

- ① 国立民族学博物館活動 特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」(3月9日～5月30日)、特別展「交感する神と人—ヒンドゥー神像の世界」(9月14日～12月5日)、及び企画展等、各種催しに対する協力
- ② 研究普及活動に対する協力
- ③ 国立民族学博物館創設50周年記念事業への協力 別紙4参照

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及 別紙5参照
国立民族学博物館収蔵資料や情報を活用した出前授業プログラムの企画・開発・調査を通して、その知的財産を継続的に活用し普及することにより、博物館活動を支援する。
内容：出前授業「世界の文化で遊んで学ぼう！」(素材：ビーズ、風呂敷及び布、ブーメランほか)
- ② 各地の博物館等を活用する巡回展や展覧会 別紙6参照
国立民族学博物館所蔵資料による巡回展を各地で開催することで、国際的にも価値の高い民族学資料を有効に活用するとともに、異文化理解を普及促進することを目的とする。
開催場所：福岡市博物館
展示内容：「驚異と怪異 — 想像界の生きものたち」(3月11日～5月14日)

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

- ① 指定管理者制度に基づく博物館運営に関する調査研究
- ② 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

- ① 『徳島県立博物館 展示案内』(日本生命財団より受託。2024年2月納品予定)
- ② 『山梨県立博物館 展示案内』(日本生命財団より受託。2025年2月納品予定)

4. 地域活性化・文化振興協力事業

地域活性化及び多様な文化の振興をめざし、各種活動に協力する。

1) 日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業

- 2025年大阪・関西万博に向けたシンポジウムの開催 別紙7参照
実施内容：2025年大阪・関西万博の開催に向けた機運醸成及び地域活性化のため、2021年度から万博開催年まで、1970年大阪万博が生み出した2大レガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働しておこなう毎年開催するシンポジウム。
第1回シンポジウム：「人類・いのち・万博:1970から2025に向けて」(2021年11月23日)
第2回シンポジウム：「人類よ、どこへ行く？ポストコロナの世界を占う」(2022年10月29日)
2023年度のテーマは「異文化接触を語り合う—『日本人』の内と外の認識(仮)」(10月28日)

- 2) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運営業務（松下幸之助記念志財団より受託）
第32回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。
「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。
5月：第1回委員会、9月：第2回委員会、10月：第3回委員会、2月：授賞式
- 3) 各種学会支援業務
 - ① 日本展示学会の事務業務（下記の事務局運営を含む）
「日本展示学会」の事務局業務を受託し実施する。
「日本展示学会」：展示に関する研究を技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。1982年に、国立民族学博物館において設立
5月：監査、6月：総会及び研究大会（高知での開催予定）11月：学会誌発送、
1月：展示論講座、3月：学会誌発送
 - ② 文化財保存修復学会 学会大会の開催運営業務
第45回学会大会開催準備、当日運営等
- 4) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行
『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。
第162号～第165号の4号の編集を受託し発行する。
- 5) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力
長野県内の文化施設での講演会等の開催協力
- 6) 滋賀県平和祈念館（滋賀県）への協力
滋賀県平和祈念館で開催される、日系カナダ展にかかわる日系ナショナルミュージアムからのデータ借用等への協力

2023年度収支計算書（正味財産増減計算ベース）

2023年4月1日から2024年3月31日まで

（単位：円）

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	1,000	1,000	0
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
受取会費	33,400,000	34,200,000	△ 800,000
維持会員	11,000,000	11,000,000	0
正会員	18,200,000	19,500,000	△ 1,300,000
家族会員	100,000	100,000	0
キャンパスメンバーズ	2,650,000	2,150,000	500,000
ミュージアム会員	1,000,000	1,000,000	0
フリーパス会員	450,000	450,000	0
事業収益	235,598,000	234,798,000	800,000
事業収益	51,560,000	40,500,000	11,060,000
受託事業収益	183,038,000	193,298,000	△ 10,260,000
広告収益	1,000,000	1,000,000	0
受取補助金等	1,000,000	1,000,000	0
受取助成金	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	270,000,000	270,000,000	0
(2)経常費用			
事業費	249,570,000	248,630,000	940,000
給料手当	121,500,000	121,500,000	0
臨時雇賃金	23,000,000	23,000,000	0
退職給付引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
退職手当	0	0	0
法定福利費	18,500,000	18,500,000	0
福利厚生費	1,500,000	500,000	1,000,000
旅費交通費	2,500,000	5,600,000	△ 3,100,000
通信運搬費	7,690,000	14,000,000	△ 6,310,000
減価償却費	180,000	180,000	0
事務委託料	100,000	100,000	0
印刷製本費	13,500,000	13,500,000	0
諸謝金	600,000	600,000	0
会議費	500,000	500,000	0
光熱水費	400,000	400,000	0
消耗品費	600,000	600,000	0
負担金	0	16,900,000	△ 16,900,000
保険料	300,000	0	300,000
租税公課	16,600,000	0	16,600,000

(単位：円)

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
原稿写真委託報酬	3,000,000	2,200,000	800,000
支払手数料	700,000	700,000	0
賃借料	3,600,000	3,600,000	0
修繕費	50,000	50,000	0
著作権等使用料	50,000	50,000	0
教材等制作購入費	32,500,000	24,000,000	8,500,000
教材出版物等棚卸差額	1,000,000	1,000,000	0
館内サービス関係費	150,000	150,000	0
雑費	50,000	0	50,000
管理費	19,430,000	20,780,000	△ 1,350,000
給料手当	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000
臨時雇賃金	100,000	100,000	0
退職給付引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
退職手当	0	0	0
法定福利費	1,450,000	1,450,000	0
福利厚生費	100,000	100,000	0
旅費交通費	100,000	100,000	0
通信運搬費	550,000	650,000	△ 100,000
減価償却費	30,000	30,000	0
印刷製本費	100,000	150,000	△ 50,000
諸謝金	3,400,000	3,400,000	0
会議費	60,000	50,000	10,000
光熱水費	120,000	120,000	0
消耗品費	500,000	660,000	△ 160,000
負担金	0	300,000	△ 300,000
保険料	200,000	0	200,000
租税公課	100,000	0	100,000
原稿写真委託報酬	250,000	250,000	0
支払手数料	120,000	120,000	0
賃借料	1,150,000	1,150,000	0
修繕費	50,000	150,000	△ 100,000
雑費	50,000	0	50,000
経常費用計	269,000,000	269,410,000	△ 410,000
当期経常増減額	1,000,000	590,000	410,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,000,000	590,000	410,000
一般正味財産期首残高	80,277,709	79,687,709	590,000
一般正味財産期末残高	81,277,709	80,277,709	1,000,000
Ⅱ 正味財産期末残高	81,277,709	80,277,709	1,000,000

収支予算の事業別区分経理の内訳表
2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	0	1,000	1,000
基本財産受取利息	0	1,000	1,000
受取会費	4,100,000	29,300,000	33,400,000
維持会員	0	11,000,000	11,000,000
正会員	0	18,200,000	18,200,000
家族会員	0	100,000	100,000
キャンパスメンバーズ	2,650,000	0	2,650,000
ミュージアム会員	1,000,000	0	1,000,000
フリーパス会員	450,000	0	450,000
事業収益	235,598,000	0	235,598,000
事業収益	51,560,000	0	51,560,000
受託事業収益	183,038,000	0	183,038,000
広告収益	1,000,000	0	1,000,000
受取補助金等	1,000,000	0	1,000,000
受取助成金	1,000,000	0	1,000,000
雑収益	0	1,000	1,000
受取利息	0	1,000	1,000
経常収益計	240,698,000	29,302,000	270,000,000
(2)経常費用			
事業費	249,570,000	0	249,570,000
給料手当	121,500,000	0	121,500,000
臨時雇賃金	23,000,000	0	23,000,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
退職手当	0	0	0
法定福利費	18,500,000	0	18,500,000
福利厚生費	1,500,000	0	1,500,000
旅費交通費	2,500,000	0	2,500,000
通信運搬費	7,690,000	0	7,690,000
減価償却費	180,000	0	180,000
事務委託料	100,000	0	100,000
印刷製本費	13,500,000	0	13,500,000
諸謝金	600,000	0	600,000
会議費	500,000	0	500,000
光熱水費	400,000	0	400,000
消耗品費	600,000	0	600,000
負担金	0	0	0
保険料	300,000	0	300,000
租税公課	16,600,000	0	16,600,000
原稿写真委託報酬	3,000,000	0	3,000,000

科 目	公益目的事業会計		法人会計	合計
	公益			
支払手数料	700,000		0	700,000
賃借料	3,600,000		0	3,600,000
修繕費	50,000		0	50,000
著作権等使用料	50,000		0	50,000
教材等制作購入費	32,500,000		0	32,500,000
教材出版物等棚卸差額	1,000,000		0	1,000,000
館内サービス関係費	150,000		0	150,000
雑費	50,000		0	50,000
管理費			19,430,000	19,430,000
給料手当			10,000,000	10,000,000
臨時雇賃金			100,000	100,000
退職給付引当金繰入額			1,000,000	1,000,000
退職手当			0	0
法定福利費			1,450,000	1,450,000
福利厚生費			100,000	100,000
旅費交通費			100,000	100,000
通信運搬費			550,000	550,000
減価償却費			30,000	30,000
印刷製本費			100,000	100,000
諸謝金			3,400,000	3,400,000
会議費			60,000	60,000
光熱水費			120,000	120,000
消耗品費			500,000	500,000
負担金			0	0
保険料			200,000	200,000
租税公課			100,000	100,000
原稿写真委託報酬			250,000	250,000
支払手数料			120,000	120,000
賃借料			1,150,000	1,150,000
修繕費			50,000	50,000
雑費			50,000	50,000
経常費用計	249,570,000		19,430,000	269,000,000
当期経常増減額	△ 8,872,000		9,872,000	1,000,000
2. 経常外増減の部				0
(1) 経常外収益				0
経常外収益計	0		0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0		0	0
当期経常外増減額	0		0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,872,000		9,872,000	1,000,000
一般正味財産期首残高				80,277,709
一般正味財産期末残高				81,277,709
Ⅱ 正味財産期末残高				81,277,709

2023 年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

184 号（4 月 30 日発行予定）

1. 特集：「カラダの人類学：身体という秘境を旅する（仮）」

〈特集のねらい〉

私たちはコロナ禍のなかで、他者の身体にふれたりふれられたりすることを躊躇するようになった。また体温を測り、手指を消毒するなど、身体を管理することが強く求められている。最も身近でありながら、自分の思いどおりにならない、遠い存在であるのもまた身体である。本特集では、医療、スポーツ、障害、身体観など、あらためて身体と文化の関係を考えたい。

〈特集構成〉

- ・ [対談] 内田樹（思想家・武道家）×広瀬浩二郎（民博） 武道と身体知
- ・ 松尾瑞穂（民博）授乳：母子間でおこなわれる身体の接触
- ・ 戸田美佳子（上智大学）障害研究と狩猟採集民研究からみた人類史におけるケア
- ・ 松嶋健（広島大学）イタリア精神医療の現場から見えるもの
- ・ 岩佐光広（高知大学）ラオスにおける死生観
- ・ 安井真奈美（日文研）妖怪・怪異に見る日本人の身体観
- ・ 碓陽子（明治大学）体型の多様性：アメリカの肥満問題から考える
- ・ 樫永真佐夫（民博）なぐりあう身体の文化史

2. 誌上再録：日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2022

「人類よ、どこへ行く？ポストコロナの世界を占う」

斎藤環、朝野和典、山中由里子、中島隆博、吉田憲司、島村一平

3. 連載：「フィールドワーカーの布語り・モノがたり」 第 2 回 金谷美和（国際ファッション専門職大学）

〈連載趣旨〉

アジア各地を中心に、さまざまな染織品の制作現場に長年かかわってきたフィールドワーカーが、様々な技法による布の作り方、売り方、使い方の現状と変化に迫る。

185 号（7 月 31 日発行予定）

1. 特集：「ビーズの人類史（仮）」

〈特集のねらい〉

ビーズが生まれたのは 10 万年前といわれ、言語の発生とほぼ同じころと考えられている。現生人類の拡散とともに世界各地で多様なビーズが生まれ、現代に受け継がれていることは民博の展示場を見てもわかる。民博の特別展・巡回展「ビーズ」のコンセプトであった、「つなぐ、かざる、みせる」という視点から、ビーズが人類史に果たした役割を考える。

2. 記事：市野進一郎「マダガスカル 南部における霊長類と人々の関係」

藤井牧人「もう一つの農業：ネパール、インナータライの農の営みに学ぶ」

3. 連載：「フィールドワーカーの布語り・モノがたり」 第 3 回 今堀 恵美（東海大学）

%_前理事長小山修三先生を偲ぶ関連記事

〈執筆依頼候補〉窪田幸子、岡田康博

186号(10月31日発行予定)

1. 特集：「デジタル時代の民族文化(仮)」

〈特集のねらい〉

昨今急速な発展を遂げているデジタル技術やモバイル通信技術は、エスニック・コミュニティの暮らしや文化、アイデンティティにどのような変化をもたらし、また活用されているのだろうか。動画共有サイトを使った先住民運動、コロナ禍における儀礼のオンライン化、携帯電話がもたらすコミュニティの新たな繋がり、SNSの発信によって変化する文化表象などを手がかりに、新しい民族のあり方を探る。

〈執筆依頼候補〉伊藤敦規、平野智佳子 など

2. 連載：「フィールドワーカーの布語り、モノがたり」 第4回 落合 雪野(龍谷大学)

187号(2024年1月31日発行予定)

1. 特集：「民族紛争と共生(仮)」

〈特集のねらい〉

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって一年が経とうとしているが、いまだ終結の兆しはみえない。この戦争は世界各地で発生している紛争や人権侵害について、日本人が関心を向ける契機となった。広く世界を見渡すと各地域ではさまざまな理由から紛争が起こっていることがわかる。紛争はなぜ発生するのか。現場ではどのような事態が起きているのか。それらを明らかにしながら、紛争の解決に繋がる方法や共生に向けた道筋を見出す。

〈執筆依頼候補〉栗本英世、川口博子 など

%_連載：「フィールドワーカーの布語り、モノがたり」 第5回 田本 なる菜(北海道大学)

『季刊民族学』普及促進についての取り組み

■ 出版取次トーハン、書店への卸販売

『季刊民族学』書店配本への取り組みとして、プレスリリース、チラシ(注文書)の制作及び配布

実績：177号：98店舗(配本総部数150部)

178号：79店舗(配本総部数150部)

179号：74店舗(配本総部数145部)

■ SNS(Twitter/Facebook)を用いた『季刊民族学』宣伝活動(下記が発信内容)

- 1) 最新号の刊行案内(刊行日・特集タイトル・特集概要・HPリンク・表紙写真・目次写真)
刊行日前後に投稿
- 2) 最新号の掲載記事紹介(タイトル・執筆者・紹介文・HPリンク・冒頭ページ写真)
刊行後、日を空けて掲載記事1本ずつ投稿
- 3) 過去号の掲載記事紹介(タイトル・執筆者・紹介文・冒頭ページ写真)
時事ニュースや最新号の内容等と関連のある過去記事を不定期で投稿
- 4) ミュージアム・ショップの入荷情報など、『季刊民族学』購入に関する案内を投稿
- 5) その他、『季刊民族学』やみんなくに関連する投稿のシェア
※Twitter：3,349フォロワー/Facebook：2,545フォロワー(2023年2月3日時点)

2023年度「国立民族学博物館友の会」講演会等 企画内容 (案)

1) 国立民族学博物館友の会講演会

2022年度は国立民族学博物館、ならびに各施設が設ける新型コロナウイルス感染予防のため、一部開催を見合わせるとともに、オンライン配信を併用しながら各種催しを実施した。また、下半期より規模を縮小しながらも、東京講演会・体験セミナーならびにみんなく見学会を再開した。2023年度は国内のプログラムを増やすとともに、午餐会を再開する。海外研修の旅の再開にむけても状況を精査しながら準備を進めていきたい。

【会場：国立民族学博物館 開催日時：毎月第1土曜日、13:30～14:40】

※ 講師の同意・許諾がえられた場合にかぎり、オンライン配信及びアーカイブ公開（YouTube「友の会チャンネル」）をおこなう。

通算回数 開催日 「演題」 / 講師（所属）

第535回 4月1日（土）

【みんなく名誉教授シリーズ】

「巻き貝の神官墓」は語る

—南米アンデス文明、成立過程の解明に迫る— / 関雄二（民博名誉教授）

第536回 5月6日（土）

【特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」関連】

「ラテンアメリカの民衆芸術—キュレーションの挑戦—」 / 鈴木紀（民博教授）

第537回 6月3日（土）

「文化の中でまもられるキツネザル

—マダガスカルにおける霊長類と人の関係— / 市野進一郎（民博特任助教）

第538回 7月1日（土）※調整中

第539回 8月5日（土）

【コレクション展示「ハンターのみた地球（仮）」関連】

「ハンターのみた地球（仮）」 / 池谷和信（民博教授）

第540回 9月2日（土）※調整中

第541回 10月7日（土）

【企画展「カナダ北西海岸先住民のアート（仮）」関連】

「アート制作から見た北アメリカ北西海岸先住民の社会・文化変化」 / 岸上伸啓（民博教授）

第542回 11月4日（土）※調整中

第543回 12月2日（土）

【特別展「交感する神と人—ヒンドゥー神像の世界」関連】

「クリシュナの生誕祭」（仮） / 福内千絵（大阪芸術大学非常勤講師）

第544回 2024年1月6日（土）※調整中

第545回 2024年2月3日（土）「—調整中—」 / 宮前知佐子（民博助教）

第546回 2024年3月2日（土）※調整中

【会場：東京他 開催日時：不定期、13：30～15：00】

通算回数 開催日 「演題」 / 講師（所属）

第133回 4月29日（土・祝）（会場：モンベル御徒町店4階サロン）

「インド洋西海域の奴隷制と奴隷交易」 / 鈴木英明（民博准教授）

第134回 6月24日（土）（会場：モンベル御徒町店4階サロン）

「人はなぜ共に歌うのか？—インド山岳民族ナガの伝統ポリフォニーと共生社会」 /
岡田恵美（民博准教授）

第135回 9月17日（日）（会場：モンベル渋谷店5階サロン）

【特別展「交感する神と人—ヒンドゥー神像の世界」関連】

「神になる人びと—南インド・ケーララ州のテイヤム祭祀（仮）」 /

竹村嘉晃（民博特任助教・人間文化研究機構研究員）

第136回 2024年1月頃 「—調整中—」 / 島村一平（民博准教授）

2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

友の会講演会において展示関連の回にあわせて、講演会終了後不定期に開催、開催時間：15：00～15：30

通算回数 開催日 「展示名」 / 講師（所属）

第79回 5月6日（土）

特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」 / 鈴木紀（民博教授）

第80回 8月5日（土）

コレクション展示「—未定—」 / 池谷和信（民博教授）

第81回 10月7日（土）

企画展「カナダ北西海岸先住民のアート（仮）」 / 岸上伸啓（民博教授）

3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

2023年度は民族学研修の旅（海外）の再開、新型コロナウイルス感染症、燃油高騰の状況を踏まえながら検討する。民族学研修の旅を再開するまでは、体験セミナー（国内）の実施回数を増やしたい。2023年度は、国内企画のみの実施を視野に年間3～4回実施する。

通算回数（開催時期） 「訪問先・テーマ」 / 講師（所属） 訪問先等

第84回（秋頃）

「民族共生象徴空間ウポポイとアイヌ文化ゆかりの地を訪ねる（仮）」 / 齋藤玲子（民博准教授）

ウポポイ、北海道博物館、北海道大学附属植物園、二風谷コタン等

北海道白老町に、民族共生象徴空間ウポポイが設立されて3年が経過する。ウポポイの「日本の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化の復興と発展のための拠点」という設立主旨を踏まえ、北海道の歴史・環境的背景を踏まえつつ、和人を含む近隣諸民族との関係性、現在のアイヌ文化継承のあり方を実見する機会として、ウポポイならびに関連文化施設を訪問する。

【企画候補（案）】 ※調整中

■「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 訪問、■ジャパニーズ・ウイスキー蒸留所 見学、

■乳加工の現場を訪ねる、■高知県の民間信仰・いざなぎ流を知る

4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

新型コロナウイルス感染症、燃油高騰の状況を踏まえながら再開の検討を続ける。

【企画候補（案）】※調整中

- メキシコ（テーマ：民衆芸術の工房、文化施設を訪ねる）
- 東アフリカ（テーマ：インド洋交易で栄えた町、スワヒリ社会を訪ねる）

5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

開催日：第205回7月12日（水） 「— 話題調整中 —」
 話題提供者：熊倉功夫（民博名誉教授） / コメントーター：吉田憲司（民博館長）

6) オンラインレクチャー

他の事業と連携した映像番組を制作し、オンラインで公開（YouTube「友の会チャンネル」）する。

7) 理事長サロン

新型コロナウイルス蔓延阻止政策のため催物等の開催が難しくなったことへの対策として、オンラインにて理事長主宰によるオンラインサロンを開催していたが、5月8日以降、新型コロナウイルスの感染症法上の取扱が2類相当から5類に引き下げられるとのことにあわせ、対面での理事長と友の会会員との交流の場を新たに設ける（年1、2回開催予定）。技術環境に応じては、オンライン併用での開催もおこなう。

8) 外部広報事業

① EXPOCITY Lab × 国立民族学博物館

2018年、ららぽーとエキスポシティ3階フードコート隣にイベントスペースが設けられた。大阪大学等と連携して子どもや子育て世代に向けたワークショップ等のイベントを実施している。万博記念公園からもほど近いEXPOCITY Labを会場とし、エキスポシティの客層である親子連れや若年世代へ向け、文化人類学の知見を生かしたワークショップなどのイベントを実施することで、国立民族学博物館や文化人類学への興味を促す。開催場所：EXPOCITY Lab

② 阪急生活楽校 × 国立民族学博物館

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、文化人類学の知見を生かした親しみやすいテーマで講演会を実施する。

- 開催場所：うめだ阪急ホール（阪急百貨店9階）
- 主催：千里文化財団、阪急うめだ本店
- 特別協力：国立民族学博物館

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ事業

1. 事業の名称：国立民族学博物館キャンパスメンバーズ新規獲得（案）
2. 趣旨：
2010年に創設された「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」の新規登録を働きかける。
近畿圏を中心とする大学教育機関に、「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」の存在とその意義等を知っていただき、より多くの大学教育機関に登録していただくことを目指す。
参考)
「国立民族学博物館キャンパスメンバーズ」とは、国立民族学博物館が大学共同利用機関法人として、大学等教育機関との連携を図り、文化人類学（民族学）にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度。（対象：大学生、教職員）
3. 訪問候補先：
※2023年度は近畿圏の芸術、ファッション、教育、観光系学部をもつ大学にはたらきかける。
大阪教育大学、大阪国際工科専門職大学、大阪音楽大学、大阪観光大学、大阪国際大学、国際ファッション専門職大学、大阪学院大学、大阪商業大学、京都外国語大学、京都教育大学、京都芸術大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都伝統工芸大学校、京都美術工芸大学、成安造形大学、奈良教育大学、佛教大学、龍谷大学、芦屋大学等
4. 現在登録している大学：
大阪大学、千里金蘭大学、塚本学院（大阪芸術大学ほか）、同志社大学（グローバル地域文化学部）、同志社大学（文化情報学部）、立命館（立命館大学ほか）、京都大学、追手門学院大学（文学部・国際教養学部）
5. 以前におうかがいしている大学：
関西大学、関西学院大学、武庫川女子大学、京都市立芸術大学（2年間は登録）、京都文教学園（当初よりご登録いただいていたが、関連学部がなくなり退会）、神戸大学

国立民族学博物館創設 50 周年事業への協力事業

1. タイトル：ギャラリー展示 田主誠の作品でたどる、みんぱくの歩み（仮）
2. 企画趣旨：

国立民族学博物館（以下、みんぱく）開館時、事務官としてみんぱくに着任した版画家・田主誠（1942-）は、『月刊みんぱく』の挿画（「民話の世界」「民族博物誌」）、旧『民博通信』の挿絵（「民博百景」）、『千里眼』の表紙画のほか、みんぱくの研究者とコラボレーションする形で新聞や雑誌の仕事（『おおさかの民家』『食の世界地図』『会社じんるい学』『おはなし村』『おはなし島』『おはなし博物館』『浪速の魚の物語』ほか）を数多く手掛けてきた。「絵心のある事務官」として、みんぱくの特別研究の成果本（『現代日本文化における伝統と変容』全9巻）や初代館長・梅棹忠夫はじめ、みんぱく研究者の著書の装丁、装画なども多数ある。

また、独自の創作活動としても、みんぱくに展示・収蔵されている世界の仮面をモチーフにした版画作品群（仮面シリーズ）が数百点におよぶ。退職後も、南太平洋や東南アジア、北米など世界各地を旅して、心の琴線に触れた現地の人びとの生き生きとした姿の作品を数多く制作した。

みんぱく創設 50 周年にあたり、その歩みをたどるイベントの一つとして、開館当初からともに歩み、みんぱくから広がった国内外の交流・体験を通して構築された、田主誠の創作世界を紹介する展示をおこなう。
3. 展示候補作品
 - 1) 『月刊みんぱく』の「民話の世界」「民族博物誌」掲載作品より
 - 2) 旧『民博通信』の「民博百景」掲載作品より
 - 3) 新聞連載「おおさかの民家」「食の世界地図」「会社じんるい学」「田主誠のたのし旅」「世界のこども夢気球」など
 - 4) 「世界の仮面」シリーズより
 - 5) その他「民族学いろはかるた」、民族学関連書籍の装画作品など
4. 主催：公益財団法人千里文化財団
5. 協力：国立民族学博物館
6. 開催期間：2023 年秋に開催される企画展（シルクスクリーン作品等の展示含む）期間にあわせ、9 月から 2024 年 1 月末まで開催予定
7. 開催場所：国立民族学博物館 1 階 エントランスホール（無料ゾーン）
8. 観覧料：無料
9. その他：展示費用については、館内ミュージアム・ショップでの関連作品等の販売の収益を充てる。

2023 年度出前授業「世界の文化で遊んで学ぼう！」活動計画（案）

1. 趣旨：

国立民族学博物館に集積された資料や情報を活用した出前授業プログラムの企画・開発・実施をおこなう。開発したプログラムは学校や公共施設、巡回展開催会場等において実施し、小学生から大人まで、多くの人びとが世界の文化に触れることができる場を提供するとともに、博物館活動の広報普及に貢献する。実施するプログラムでは、体験や交流を取り入れ、楽しみながら世界の多様な文化を学べるようにする。

2. 実施予定プログラム：

- ・「ビーズで世界とつながろう！—ペーパービーズづくりに挑戦！」
- ・「いちまい布をつかってみよう！（風呂敷、世界の布）」
- ・「ブーメランをとばしてみよう！」

3. 実施対象等：

- ・ 出前授業の実施
近隣地域の学校や公共施設等（小学生以上を対象）
- ・ 出張ワークショップの実施
個人を対象に、地域の公共施設等を会場とし、当財団主催のイベントとして実施
時期：夏休み期間（7月下旬～8月中旬）、12～1月に各1回、年2回を予定

国立民族学博物館 巡回展「驚異と怪異」開催概要

1. 名称：特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」
2. 趣旨：

近世以前、ヨーロッパや中東では、人魚や一角獣といったふしぎだが実在するかもしれない生物や現象は「驚異」として自然誌の知識の一部とされてきた。また、東アジアでは、奇怪な現象や異様な生物の説明として「怪異」という概念がつくりあげられてきた。本展では、常識や慣習から逸脱した「異」なるもの（異境・異人・異類）をめぐる人間の心理と想像力のはたらき、言説と視覚表象物の関係を解明するとともに、人間の想像力と環境の相関関係を究明する。本展は、令和元年に国立民族学博物館で開催された特別展「驚異と怪異」の一部を巡回するもので国立民族学博物館の民族資料を中心に、独自に借用する資料や、ローカルな民俗資料も追加する。人魚、龍、怪鳥など世界と日本のさまざまな幻獣や怪物たちを紹介して、人間の想像力のおもしろさに迫る。
3. 主催：福岡市博物館 国立民族学博物館 公益財団法人千里文化財団 テレQ、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス
4. 協賛：有限会社ももち浜調剤薬局
5. 後援：福岡市教育委員会、(公財)福岡文化芸術振興財団、西日本鉄道
6. 開催期間：3月11日(土)～5月14日(日)
7. 開館時間：午前9時30分～午後5時30分
8. 休館日：毎週月曜日
9. 会場：福岡市博物館 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
10. 展示点数：約350点
11. 観覧料：一般1,600円(1,400円)、中高生1,200円(1,000円)、小学生800円(600円)
※()内は前売料金
12. 関連事業：
 - 記念講演会「驚異と怪異への誘い—人はなぜモンスターを想像するか」
開催日：3月11日(土)
 - 民博×市博クロストーク
開催日：4月22日(土)

日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2023 事業計画 (案)

1. 趣旨：

2025 年大阪・関西万博の開催に向けて、2021 年度から万博開催年まで、開催地である大阪及び関西の機運醸成及び地域活性化のため、1970 年大阪万博が生み出した 2 大レガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働しておこなう毎年開催するシンポジウム。第 1 回目は「人類・いのち・万博:1970 から 2025 に向けて」と題して、2021 年 11 月 23 日に開催。第 2 回目は「人類よ、どこへ行く？ ポストコロナの世界を占う — Quo vadis, homini?」と題して、2022 年 10 月 29 日に開催。
2. 2023 年度テーマ：「異文化接触を語り合う — 『日本人』の内と外の 認識 — (仮)」
3. 2023 年度シンポジウム概要：

1970 年大阪万博は、多くの日本人が自国以外の異文化に大規模に接触する大事件であった。それから約 50 年、われわれ日本人はどのように異文化を受容し、あるいは自国の文化を海外に向けて発信してきたのだろうか。2025 年大阪・関西万博の開催を控えたいま、本シンポジウムでは、1970 年大阪万博及びそれ以後の 50 年間での日本における異文化接触を検証するとともに、異文化の受容と自国文化の発信を「内」と「外」に視点を分け、内の視点として関西、とりわけ大阪と京都の文化の専門家、外の視点としてヨーロッパ・アフリカの専門家を招き、多文化接触と文化変容、多文化世界における文化発信の重要性について討論する。
4. 開催日時：2023 年 10 月 28 日 (土) 13:30-16:30 (開場 13:30)
5. 会 場：国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール (講堂)

※参加費無料 (要展示観覧券)、要事前申込、定員 200 名 (現時点のコロナ自粛の現状)
※オンライン配信あり (申込不要)、ホームページで公開予定。
6. 主催：公益財団法人千里文化財団
7. 共催：大阪府、国立民族学博物館 (依頼予定先)
8. 協力：国立大学法人大阪大学、公益財団法人大阪日本民芸館、大阪モノレール株式会社、万博記念公園マネジメント・パートナーズ (依頼予定先)
9. 後援：公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 (依頼予定先)
10. プログラム案：

13:30 挨拶 中牧 弘允 千里文化財団理事長
13:40 シンポジウムの開催にあたって
吉田 憲司 国立民族学博物館長
14:00 講演 1 「異文化接触による大阪文化の変容とグローバル時代の文化発信 (仮題)」
橋爪 節也 大阪大学総合学術博物館前館長
14:20 講演 2 「京都における異文化の受容と海外における京都文化の受容 (仮題)」
井上 章一 国際日本文化研究センター所長
14:40 講演 3 「日本におけるアフリカ文化の受容と日本文化の海外発信への課題 (仮題)」
ウスビ・サコ 京都精華大学教授・前学長
15:10 講演 4 「英国人からみた日本における異文化接触による文化変容：日本文化はどう海外に伝わっているか (仮題)」
ロジャー・グッドマン オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ学長
<休憩 10 分>
15:30 パネルディスカッション
パネリスト 橋爪節也、井上章一、ウスビ・サコ、ロジャー・グッドマン
ファシリテーター 吉田 憲司
16:30 閉幕